患者向医薬品ガイド
2023年3月更新

フロセミド注射液20mg「日医工」

【この薬は？】

販売名	フロセミド注射液20mg「日医工」 Furosemide Injection 20mg
一般名	フロセミド Furosemide
含有量 (1管中)	20mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、利尿降圧剤と呼ばれるグループに属する薬です。
・この薬は、腎尿細管に作用して尿量を増やして循環血流量を減少させることなどにより血圧を下げます。
・次の病気の人に、医療機関で使用されます。
高血圧症（本態性、腎性等）、悪性高血圧、心性浮腫（うっ血性心不全）、腎性浮腫、肝性浮腫、脳浮腫、尿路結石排出促進
急性又は慢性腎不全による乏尿

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。
・無尿の人
・腎毒性物質または肝毒性物質による中毒の結果起きた腎不全の人
・肝性昏睡の人
・体液（血液、尿など）中のナトリウム、カリウムが明らかに減少している人

・著しく循環血液量が減少している人
・著しく血圧が低下している人
・過去にスルフォンアミド誘導体に対し過敏症のあった人
・デスモプレシン酢酸塩水和物（男性における夜間多尿による夜間頻尿）を飲んでいる人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
・重篤な冠動脈硬化症または脳動脈硬化症のある人
・本人または両親、兄弟に痛風、糖尿病のある人
・下痢、嘔吐（おうと）のある人
・手術を予定している人
・減塩療法中の人
・全身性エリテマトーデスの人
・腎臓に重篤な障害のある人
・進行した肝硬変症のある人
・肝臓に障害のある人
・妊娠初期または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

○この薬には併用をしてはいけない薬［デスモプレシン酢酸塩水和物（ミニリンメルト）（男性における夜間多尿による夜間頻尿に使用している場合)］や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

通常、成人の使用する量は次のとおりですが、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

〔高血圧症（本態性、腎性等)、悪性高血圧、心性浮腫（うっ血性心不全)、腎性浮腫、肝性浮腫、脳浮腫、尿路結石排出促進の場合〕

1日量	フロセミドとして20mg

腎機能不全などの場合はさらに大量に用いることもあります。
悪性高血圧の場合は、通常、他の降圧剤と併用されます。

〔急性又は慢性腎不全による乏尿の場合〕

1日量	フロセミドとして20～40mgから開始し、最大量は1000mgまでです。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・長期間使用する場合、電解質失調（体液中のナトリウムやカリウムのバランスが崩れること）になることがあるので定期的に血液検査が行われます。

・めまい、ふらつきなどがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転など危険を伴う機械を操作する際には注意してください。
・妊娠初期または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、意識の消失、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
アナフィラキシー	ふらつき、喉のかゆみ、息苦しい、動悸（どうき）、全身のかゆみ、じんま疹
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	体がだるい、出血が止まりにくい、発熱、寒気、めまい、喉の痛み、息切れ、動悸、あおあざができる
汎血球減少症 はんけっきゅうげんしょうしょう	出血しやすい、発熱、寒気、めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、喉の痛み、息切れ、動悸、あおあざができる
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	出血が止まりにくい、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる
赤芽球癆 せきがきゅうろう	体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
水疱性類天疱瘡 すいほうせいるいてんぽうそう	全身の皮膚に少し押した程度では破れない大小の水ぶくれ（水疱）が多発する
難聴 なんちょう	人の声、音が聞こえづらい、耳鳴り、耳がつまる感じ
中毒性表皮壊死融解症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（トキシック・エピダーマル・ネクロリシス：テン）	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス-ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、眼の充血や、ただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	発熱、関節や喉の痛み、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する

重大な副作用	主な自覚症状
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る
心室性不整脈（トルサド・ド・ポアント Torsades de pointes） しんしつせいふせいみゃく（トルサド・ド・ポアント）	めまい、気を失う、動悸、胸の不快感
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、むくみ、吐き気、嘔吐、腹痛、関節の痛み、発疹、下痢、尿量が減る
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	発熱、咳、息苦しい、息切れ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗がでる、体がだるい、ふらつき、発熱、突然の高熱、むくみ、寒気、出血が止まりにくい、出血しやすい
頭部	めまい、意識の消失、気を失う、頭痛
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	目の充血やただれ
耳	耳鳴り、人の声、音が聞こえづらい、耳がつまる感じ
口や喉	歯ぐきの出血、喉の痛み、唇や口内のただれ、咳、喉のかゆみ、吐き気、嘔吐
胸部	息切れ、息苦しい、動悸、胸の不快感
腹部	腹痛
手・足	関節の痛み、関節や喉の痛み、手足が冷たくなる
皮膚	じんま疹、あおあざができる、発疹、皮膚が広い範囲で赤くなる、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、全身のかゆみ、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る、全身の皮膚に少し押した程度では破れない大小の水ぶくれ（水疱）が多発する、粘膜のただれ、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発
便	下痢
尿	尿量が減る

【この薬の形は？】

性状	無色澄明の注射液
形状	

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	フロセミド
添加剤	等張化剤、pH 調節剤

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売元：日医工株式会社（https://www.nichiiko.co.jp）

くすりの相談窓口の電話番号　TEL（フリーダイアル）：(0120) 039-215

受付時間：9 時～17 時（土、日、祝祭日その他当社の休業日を除く）